

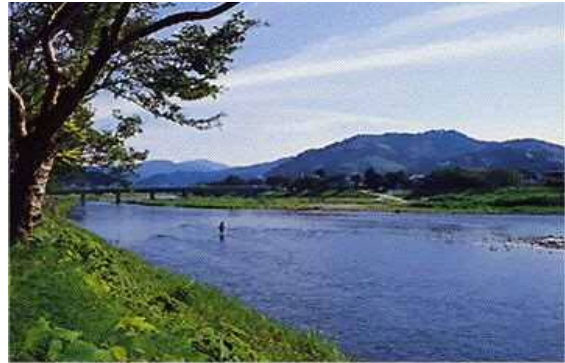
はじめに

中遠地域及び中遠広域事務組合とは

中遠地域は、北部に赤石山脈に連なる森林地帯、東部に牧之原台地と小笠山、西部に磐田原台地を抱え、平野部には天竜川、太田川、菊川の河川が流れ、県内最大の平野部を形成しています。また、南部の遠州灘海岸には砂丘が広がるなど、自然環境に恵まれています。

東京と大阪の中間点に位置し、東名高速道路、新東名高速道路及び東海道新幹線などの主要幹線が管内を横断し、流通基盤に恵まれています。

農業生産では、水田が多く静岡県内最大の稲作地帯であるほか、静岡県の特産であるお茶や温室メロンの生産も盛んで、県内でも主要な農業地帯です。また、林業生産では、特用林産物としての菌茸類の栽培とともに、優良素材の生産振興が進められています。



中遠広域事務組合は、静岡県西部の磐田市、袋井市、森町の2市1町から構成されています。磐田市、袋井市、森町で構成する中遠広域事務組合は、もともと磐田市、袋井市、福田町、竜洋町、浅羽町、森町、豊田町、豊岡村の2市5町1村からなり、昭和46年7月に「中遠地区広域市町村圏」として設定され、昭和47年5月には、「中遠地区広域市町村圏事務組合」を設立。市町村合併により平成17年4月から現名称となり、不燃ごみの共同処理を行う一部事務組合として広域行政を行っています。

当組合では、「不燃性ごみ処理施設関連業務」を行っています。不燃性ごみ処理施設関連業務は、中遠広域粗大ごみ処理施設(磐田市新貝)と、中遠広域一般廃棄物最終処分場(森町一宮)及び既に埋立が終了している袋井市宇刈地内の一般廃棄物最終処分場の管理・運営を行っています。

また、当組合では、粗大ごみ処理施設や一般廃棄物最終処分場の維持管理を構成市町と共同で実施し、業務を通して環境負荷を削減することに努めてきました。

私たちの住む地球では、森林伐採による自然環境の破壊、オゾン層の破壊による紫外線量の増加、二酸化炭素の排出量の増加による地球温暖化など様々な環境問題が顕在化し、環境保全への関心が地球規模で高まっています。

そうした中、地球規模で環境保全活動が展開されるためには、自治体が率先して行動を起こすことが必要不可欠です。当組合も、地球環境を視野に入れた効率的・継続的な活動を行うため、環境に最大限配慮した活動を行っています。

<特産品・名所の一例>



シラス

近海で獲れるため鮮度が良く、加工技術が高いことから、福田産のシラス干しは多くの人に高く評価されています。



静岡クラウンメロン

メロンの最高峰。優美で芳醇な香り、舌でとろけるような甘みはフルーツの王様にふさわしいメロンです。



次郎柿

森町が原産の次郎柿は、まろやかな風味で「甘柿の王様」と言われています。森町産の極上次郎柿は毎年秋、皇室に献上されています。



矢奈比売神社(やなひめじんじゃ)

矢奈比売神社は見付天神社とも呼ばれ、「延喜式」(延喜5年(905年))にも記載されている古社です。怪物を退治した悉平太郎の伝説の舞台ともなり、参道には、悉平太郎の像が建てられています。



法多山 尊永寺(はったさん・そんえいじ)

神亀2年(725年)、聖武天皇の勅命を受けた行基上人により創建されたお寺です。高野山真言宗に属し、厄除観音として有名です。



遠江國一宮 小國神社(とおとうみのくにいちのみやおくにじんじゃ)

「だいこく様」として親しまれる「大己貴命(おこなむちのみこと)」をご祭神とし、遠州地方第1の社として1460余年の永い歴史を持つ古社です。